

ワインテージ家具と共ににあるイタリアの暮らし



①レストランもテーブルと椅子をヴィンテージにして統一感を。

②イタリア人夫婦(70代)の落ち着いた自宅のリビング。

③イタリア人建築家(40代)は50年代の家とインテリアの年代を合わせて。

④イタリア人デザイナー(30代)のポップなヴィンテージ家具。

⑤ミラノにあるセレクトインテリアショップ。

⑥椅子やソファを張り替えるための布サンプル。



ASI
ARCHITECTS
STUDIO
INTERNATIONAL

アーキテクツ・スタジオ・ジャパンは
日本の枠を超えて、海外で活躍中の
建築家、デザイナー、アーティストに
も、そのネットワークを広げています。



⑥

イタリアで一般的な家庭にお邪魔すると、インテリアの選び方にそれぞれの家のデザイン志向を見ることができます。モダンなインテリアで統一している家、代々受け継がれてきたようなヴィンテージ家具を置いている家、そしてモダンな雰囲気の中にヴィンテージ家具がマッチしている家まで。この3番目のタイプがイタリアで最も目にするパターンのようと思われます。このヴィンテージ家具の探し方や、現代の家庭での使い方を紹介したいと思います。

街によつて規模や周期はまちまちですが、大概どこの街でも探せば毎月どこかで骨董市が開かれています。骨董市というのはどんな掘り出し物があるのか、行つてみると分からぬといつうワクワク感が醍醐味です。まず頭の中で「こんなものがあつたらしいな」というイメージを描いておいて、見つかったら値段を聞いてみて、高いと思ったら交渉もできます。それでも迷う場合には、妥協することなく潔く諦めることも肝心。そうして巡り会えたヴィンテージは、感慨もひとしおです。

ヴィンテージが欲しくて、探しているもののイメージがはつきりしている場合には骨董市で運試しするよりも、ヴィンテージ専門のショッピングに行つた方が早いでしょう。行つた時は在庫になかつたとしても、例えば「XXX年にデザインされたXX」というモデルの椅子を探している」と伝えておけば、入荷した時に連絡してもらうこともできます。

このページも、そのままでは使いたい勝手が悪かつたり、既にある他の家具と相性が難しいこともあります。骨董市が開かれている場所には、行つてみると分からぬといつうワクワク感が醍醐味です。まず頭の中で「こんなものがあつたらしいな」というイメージを描いておいて、見つかったら値段を聞いてみて、高いと思ったら交渉もできます。それでも迷う場合には、妥協することなく潔く諦めることも肝心。そうして巡り会えたヴィンテージは、

ヴィンテージの家具には、長年使い込まれてきた素材感と、獨特の存在感があります。それは住んでいる人たちの記憶や思い出も吸い取つて、あたかも家の一部になっていくかのようです。そんな風に日常生活を豊かな気持ちにしてくれるヴィンテージ家具は、愛着を持って大目に使っていきたいものです。



郊外の骨董市で垣間見えるイタリアのカントリーライフ。

ミラノにあるミッドセンチュリーを扱うビンテージショップ。

文・写真／西村清佳(イタリア在住)